

ボツワナ共和国月報(2025年10月)

主な出来事

【内政】

- ボコ大統領、東京2025世界陸上の選手の祝勝会を開催
- パンダマテンガ地区にあらたなサイロ建設へ
- カラハリ南選挙区補欠選挙の日程公示
- グローバルエキスポ2025開催
- モラピシ代表、大統領顧問に任命
- 第4期首長議会
- 第12国家開発計画の国会審議
- 国民健康保険制度
- 医薬品供給状況
- ラモハピ水資源・住宅大臣、記者会見
- ジンバブエから抗レトロウイルス薬の貸与を受ける
- 6公館の新設を発表(往電第712号)
- ボツワナ国防軍司令官の交代

【外政】

- オカバンゴ・デルタ、ドイツにて「持続可能なサファリ」の最優秀目的地に選出
- モワサ統領府担当大臣、マラウイを訪問
- ハオラテ副大統領、ザンビア共和国へ実務訪問
- ボツワナ・ナミビア二国間会合
- レセゴ・チョンボ青年・ジェンダー大臣、イタリアを訪問
- ボツワナ、オマーンとの外交関係を樹立
- ハオラテ副大統領、AFSIC及びIMF・世界銀行年次総会に出席
- ボツワナ国民向け英国ビザ要件
- ボコ大統領、オマーン、UAE、スイスへ実務訪問
- ボツワナ、トルクメニスタンと外交樹立

【SADC関連】

- SADC、マダガスカルの政治・治安情勢に深刻な懸念を表明
- SADC、マダガスカルに長老団による事実調査ミッションを派遣
- SADC、SEOMをタンザニアに派遣
- SADC、マダガスカル情勢に関するトロイカ特別首脳会合を開催
- SADC、タンザニア情勢について、声明を発表

【経済】

- アフリカ開発銀行(AfDB)、ボツワナに関する2025年国別重点報告書を発表
- 改正鉱山・鉱物法の施行

- 9月の消費者物価上昇率は3.7%に上昇
- 8月の貿易収支は約14億8,000万プラの赤字

【大使館関連行事】

- 第12回日本映画祭の実施
- 国連80周年記念マラソンへの参加25日
- 在外公館長表彰式典の実施
- 草の根無償資金協力にかかる署名式典

【内政】

- ボコ大統領、東京2025世界陸上の選手の祝勝会を開催
2日、ボコ大統領は東京2025世界陸上の選手の祝勝会を開催し、メダリストやボツワナ陸上協会関係者らに加え、進藤雄介駐ボツワナ日本国大使も出席した。
- パンダマテンガ地区にあらかなサイロ建設へ
3日、ボツワナ農業市場調査委員会(BAMB)は、食料安全保障の向上のため、北東部パンダマテンガ地域に新たなサイロ建設を検討していることを明らかにした。
- カラハリ南選挙区補欠選挙の日程公示
7日、政府は、カラハリ南選挙区補欠選挙の日程を11月15日と公示した。この補欠選挙は7月のチンボンビ国土農業大臣(当時)死去にともなうもの。
- グローバルエキスポ2025開催
8日、ボコ大統領はハボローネで、グローバルエキスポ2025を開催した。このエキスポはBtoBの投資を目的とした展示会と位置づけられている。
- モラピシ代表、大統領顧問に任命
9日、政府は与党UDCを構成するボツワナ人民党(BPP)代表のモラピシ氏を大統領顧問に任命すると発表した。
- 第4期首長議会
20日から31日まで、第4期首長議会が開会される。
- 第12国家開発計画の国会審議
13日、特別国民議会が開会し、モワサ大統領府担当大臣が第12国家開発計画(NDP12)を国民議会に提出した。議会での審議は11月7日までの日程で行われる。

成立すれば、2026年～2030年まで5年間実施されることになる。

○ 国民健康保険制度

20日、オオケディツェ保健副大臣は、ハポローネで国民健康保険構想協議研修会に出席し、国民健康保険導入の必要性に言及した。

○ 医薬品供給状況

24日、モディセ保健大臣は記者会見を開き、8月の緊急事態宣言の後、医薬品不足の解消に向けた供給の見通しについて説明した。

○ ラモハピ水資源・住宅大臣、記者会見

27日、ラモハピ水資源・住宅大臣は、水資源・住宅省の1年間の取組について、記者会見で発表した。同大臣は、同省が住宅建設で直面する課題を述べるとともに、水道税の30%減税等の政策により、約4億プラの水道料金の回収に成功したことなどを明らかにした。

○ ジンバブエから抗レトロウイルス薬の貸与を受ける

30日、ジンバブエから貸与された抗レトロウイルス薬がボツワナに到着した。うち20%は寄付となる。

○ 6公館の新設を発表(往電第712号)

30日、ブタレ国際関係大臣は、国民議会において、アンカラ、ドーハ、リロングウェ、モスクワ及びマスカットに大使館を、ドバイに総領事館を新設すると発表した。

○ ボツワナ国防軍司令官の交代

31日、政府は、ボコ大統領はモプティン大使を新たなボツワナ国防軍司令官に任命したと報道発表した。

【外政】

○ オカバンゴ・デルタ、ドイツにて「持続可能なサファリ」の最優秀目的地に選出

9月23日、オカバンゴ・デルタがベルリン(ドイツ)で開催された「TRAVELBOOKアワード・セレモニー」において、世界の「持続可能なサファリのための最優秀目的地(Best Destination for a Sustainable Safari)」に選ばれた。

○ モワサ統領府担当大臣、マラウイを訪問

4日、モワサ大統領府担当大臣はブラントアイア(マラウイ)を訪問し、次期大統領及

び次期副大統領の宣誓式、並びにマラウイ共和国第7代大統領の就任式に出席した。

○ ハオラテ副大統領、ザンビア共和国へ実務訪問

8日～9日、ハオラテ副大統領はルサカ(ザンビア)で開催された第3回アフリカ・デジタル政府サミットに参加し、ボツワナのデジタルトランスフォーメーションの道のりを強調する講演を行った。また、同訪問中、同副大統領はムタレ・ザンビア副大統領を表敬訪問し、デジタルトランスフォーメーション、貿易円滑化、地域統合、インフラ開発を含む、相互に関心のある分野について意見交換した。

○ ボツワナ・ナミビア二国間会合

10日、ボコ大統領はウイントフック(ナミビア)にて、第2回ボツワナ・ナミビア二国間会合(BNC)に出席し、ンダイトワ・ナミビア大統領と会談した。同会合では、2022年9月にハボローネで開催された第1回会合からのボツワナ・ドライポート(ウォルビスベイ)及びマムノ/トランスカラハリ国境ワンストップポスト(OSBP)の運用開始、身分証明証を両国間の旅行書類として使用する制度、トランスカラハリ鉄道プロジェクトの進捗状況について議論され、8つのMoUに両大統領は署名した。また同訪問中、ボコ大統領はボツワナ建国の父であるセレツェ・カーマ氏を記念した道路の命名式に参加し、この式典には、カーマ元大統領(初代大統領の子息)も出席した。

○ レセゴ・チョンボ青年・ジェンダー大臣、イタリアを訪問

13日～17日、レセゴ・チョンボ青年・ジェンダー大臣は、ローマで開催された世界食糧フォーラムに、グローバルリーダーと共に参加した。

○ ボツワナ、オマーンとの外交関係を樹立

14日、ボツワナとオマーンは共同コミュニケに署名し、両国間の外交関係が正式に開始された。この歴史的な合意は、国際法と国連憲章の原則に基づき、さまざまな分野での友好、協力、理解を促進するという相互のコミットメントを強調するもの。

○ ハオラテ副大統領、AFSIC及びIMF・世界銀行年次総会に出席

14日～18日、ハオラテ副大統領はまずロンドンで開催されたアフリカ金融戦略・投資会議(AFSIC2025)に参加し、その後13日～18日にワシントンDCで開催されたIMF・世界銀行年次総会に出席した。AFSICはアフリカで最も有力な投資関連会議の1つであり、今年のテーマは「ボツワナへの投資:持続可能な資本のためのアフリカの次なるフロンティアを解き放つ」であった。

○ ボツワナ国民向け英国ビザ要件

14日、政府はボツワナ国民が英国への入国のために入国ビザを事前取得することが必要となったことを通知した。2022年以降ボツワナ人の不法な英国への移住が増加し、亡命申請が相当数に上っていることを受け、英国政府がボツワナに対する「ビザなし渡航」を撤回したため。

○ ボコ大統領、オマーン、UAE、スイスへ実務訪問

19日～29日、ボコ大統領はマスカット(オマーン)、ラスアルハイマ及びアブダビ(アラブ首長国連邦)、そしてジュネーブ(スイス)を訪問。同大統領は、19日～25日でマスカット、ラスアルハイマ及びアブダビにて オマーン投資庁を含む、オマーンとUAEの主要機関や投資家とハイレベルな会合を行った。また、25日～29日にジュネーブで引き続き投資促進活動を行い、国際的なCEO、起業家、投資家と面会し、強化されたパートナーシップと投資機会を模索した。

○ ボツワナ、トルクメニスタンと外交樹立

20日、ボツワナとトルクメニスタンは、両国間の外交関係樹立に関する共同コミュニケに署名した。署名式はニューヨークで行われ、両国の代表は相互理解、友好及び協力を促進するという共通のコミットメントを表明した。

【SADC関連】

○ SADC、マダガスカル政治・治安情勢に深刻な懸念を表明

13日、南部アフリカ開発共同体(SADC)はマダガスカル情勢について、政治・防衛・安全保障協力オーガン議長であるムタリカ・マラウイ大統領名で声明を発表した。声明では、SADCはマダガスカルにおける最近の政治・治安について注視しており、マダガスカルの方々の関係者に対し、合法的かつ平和的な対話を行うことを強く要請した。

○ SADC、マダガスカルに長老団による事実調査ミッションを派遣

14日、SADCはマダガスカル情勢について、政治・防衛・安全保障協力オーガン議長であるムタリカ・マラウイ大統領名で声明を発表した。声明では、立憲秩序の早期回復を促進し、危機の解決を支援するため、SADCはマダガスカルに事実調査ミッションを派遣することが発表された。

○ SADC、SEOMをタンザニアに派遣

14日、SADCはリチャード・元マラウイ国会議長をリーダーとするSADC選挙監視ミッション(SEOM)を29日に実施される総選挙に向け、タンザニアに派遣した。SEOMは、同国の選挙前、投票日、及び選挙後のプロセスを監視。ミッションの目的は、「改訂された民主的選挙を規定するSADCの原則とガイドライン(2021年)」に従って選挙の実施状

況を評価すること。

○ SADC、マダガスカル情勢に関するトロイカ特別首脳会合を開催

16日、SADC機構トロイカの国家元首及び政府首脳による特別首脳会合がオンラインで開催され、マダガスカル情勢について議論された。

○ SADC、タンザニア情勢について、声明を発表

31日、SADCはタンザニア情勢について、政治・防衛・安全保障協力オーガン議長であるムタリカ・マラウイ大統領名で声明を発表した。同声明で、タンザニアで起きているデモについて、事態の悪化を避けるように呼びかけつつ、敵対行為の即時停止と全ての当事者がタンザニア国民の生活を最優先するように呼びかけた。

【経済】

○ アフリカ開発銀行(AfDB)、ボツワナに関する2025年国別重点報告書を発表

9月16日、アフリカ開発銀行(AfDB)は「ボツワナの資本をより効果的に開発に活用する」をテーマに、ボツワナに関する2025年国別重点報告書を発表した。報告書は、ボツワナの総国家資産が2020年に1,160億ドルを超え、GDPの6倍以上に達したことを強調。しかし、輸出収入の約80%を占めるダイヤモンドへの過度な依存が世界的なショックへの脆弱性を招くと警告。インフラ不足、気候リスク、対外脆弱性により経済成長は減速し、2024年は3%の縮小、2025年も低調な見通しとなっている。

○ 改正鉱山・鉱物法の施行

1日、ボツワナ改正鉱山・鉱物法が施行され、鉱業分野における地元参加、環境保護、付加価値創出の強化が図られた。主な変更点として、新規鉱業免許に24%の現地所有権要件が導入され、政府が15%の持分を取得しない場合、ボツワナ国民又は現地登記企業が株式を保有することが義務付けられた。さらに、改正法は国内付加価値チェーン強化のため、企業がボツワナ国内で鉱物を加工する現地付加価値化を義務付けた。これらの改革は、鉱物資源から国家の利益を最大化すると同時に、持続可能で包摂的な成長を促進することを目的としている。

○ 9月の消費者物価上昇率は3.7%に上昇

ボツワナ統計局(Statistics Botswana)は、9月の年間インフレ率は、8月の1.4%から2.3ポイント上昇して、3.7%に上昇したと発表した。この上昇の主な要因は、運輸(+1.5ポイント)、食品・非アルコール飲料、その他商品・サービス(各+0.8ポイント)。地域別では全地域でインフレ率が上昇したが、農村地域が最大の上昇幅(1.6%→4.0%)、次いで都市部(1.0%→3.3%)、町(1.6%→3.9%)となった。また、全国消費者物価指数(CPI)は8

月の136.7から9月に138.9へ1.6%上昇した。

○ 8月の貿易収支は約14億8,000万プラの赤字

ボツワナ統計局(Statistics Botswana)は、2025年8月のボツワナ総輸入額が、7月の改定値65億3,930万プラから0.8%微増して65億9,490万プラとなったと発表。主な輸入品目は燃料(23.3%)、食品・飲料・たばこ(18.7%)、次いで機械・電気機器(15.5%)、化学製品・ゴム製品(10.9%)。南アフリカ関税同盟(SACU)は輸入の主要供給源であり、71.6%を占めた。国別では、南アフリカが輸入の大半(64.6%)を供給し、中国(7.2%)、ナミビア(6.1%)、モザンビーク(4.6%)が続いた。同月のボツワナ輸出総額は、7月の74億9,040万プラから31.8%の大幅に減少して51億1,100万プラとなった。ダイヤモンドと銅が主要輸出品目であり、それぞれ65.8%、16.7%を占めた。アジアは総輸出の49.6%を占め、輸出先として首位。EU(22.5%)、SACU(14.3%)が続いた。主な輸出先国は、アラブ首長国連邦(23.2%)、ベルギー(21.9%)、インド(11.7%)、南アフリカ(11.4%)。輸入品の大部分(85.5%)は道路でボツワナに入国し、10.8%は鉄道、3.7%は航空便で輸入された。一方、輸出品の大部分(67.2%)は航空便で輸送され、次いで道路(31.7%)、鉄道(1.1%)。

【大使館関連行事】

○ 第12回日本映画祭の実施

14日から18日まで、国際交流基金主催の日本映画祭が実施された。16日にはハポローネ市内の映画館で、招待客と一般客あわせて約150名が日本映画に関心を寄せて参加する中、進藤大使が挨拶し日本文化への理解と関心を促進した。

○ 国連80周年記念マラソンへの参加25日

国連が主催する80周年記念マラソンがハポローネ市内で開催され、進藤大使がハオラテ副大統領と共に参加した。会場では、日本文化理解促進の一環として、当館が緑茶を提供した。

○ 在外公館長表彰式典の実施

28日、東京2025年世界陸上で活躍したボツワナ陸上連盟の選手及び関係者を大使公邸で表彰する式典を開催した。ボツワナ側からスポーツ・芸術大臣、国際関係大臣及びカーマ元大統領も出席し、21名の表彰者に賛辞を送った。同式典の様子はボツワナ国営テレビ等の各種メディアでも放送された。

○ 草の根無償資金協力にかかる署名式典

31日、草の根・人間の安全保障無償資金協力(GGP)により、ボツワナのジェンダー

に基づく暴力防止・支援センター(BGBVC) に対する84,942米ドル の資金協力に関する署名式典を大使公邸で実施した。進藤大使及びBGBVCセンター長がそれぞれ挨拶し、その模様は各種メディアでも放送された。また、翌日のボツワナ国営テレビでは当館草の根委嘱員がスタジオ出演し、同協力及び式典の内容について詳細が放送された。

(了)